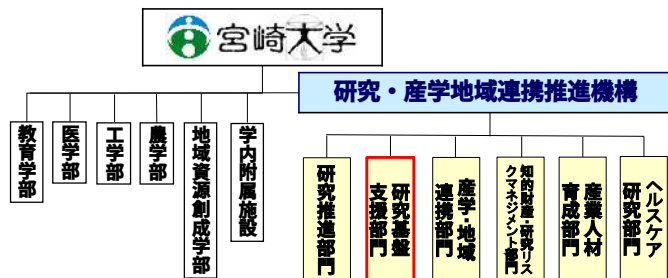


宮崎大学 研究・産学地域連携推進機構 研究基盤支援部門

研究・産学地域連携推進機構 研究基盤支援部門とは？



研究基盤支援部門では、学内外の利用者に対して、保有する大型機器を利用した研究・教育の支援および分析技術の向上を目的とした活動を展開しています。

問い合わせ先
電話（代表） 0985-58-2868
ファックス 0985-58-2868
メール mrc-office@miyazaki-u.ac.jp

技術相談、知的財産、試料分析等を通じて、地域、産業界と大学との連携をサポートします。

業務内容

学内及び学外からの分析機器利用の支援

共同利用の要望の多い分析機器を導入して、研究基盤支援施設の充実に努めています。施設に設置された分析機器は、学内研究者だけでなく学外の企業等技術者にも利用いただけるように支援体制を整えています。学外からの分析・測定依頼も受け入れています。



走査型電子顕微鏡（SU3500）講習会

部門専任教職員と学内協力教職員により機器の保守管理体制を整えており、さらに利用者講習会を開催するなど、利用者の分析技術の向上と分析機器の適正な利用を図っています。

分析技術の紹介や相談による分析技術啓発及び地域貢献

新しい分析技術の紹介と分析機器利用者による相互の研究発表の場として、学外の企業技術者にも参加してもらい「分析講演会」を毎年開催しています。分析機器の講習会や研修会を随時開催し、分析機器の測定原理、利用技術及び最新の分析手法などの情報をお伝えできるようにしています。専任教職員を中心に企業等からの分析技術相談にも適切に応じられる体制を整えています。

本学研究基盤の戦略的整備運営のための支援

本学の統一的な設備共用システムである「共同利用研究設備 閲覧・検索・予約システム」の維持・管理・強化を図るとともに、研究基盤の共同利用実績情報の集計と分析を行い、本学の特色ある研究や地域ニーズに応える戦略的な研究基盤整備のための支援を行っています。

また、本学研究基盤の機関全体での共用文化の定着に向けた活動を行っています。

受託試験の受け入れ

地域に貢献することを目指し一部の機器について受託試験を行っております。これまでは学内という限られた範囲で共同利用するという原則の下で運用しておりましたので、学外の皆様は本学の研究者と共同研究という形でしか分析機器が利用できませんでした。現在、直接学外の皆様からの要望をお受けすることが出来ます。高額な分析機器を試験的に使用してみたいと思われる方など、積極的なご利用お待ちしております。



研修生の受け入れ

JICAやNGOなどの要請により、国内外の研修生を受け入れ、分析技術の研修を行っています。



JICA研修生受け入れ

主要な保有機器および受託試験利用料

機器名	利用目的	料金 (円)
イオンスライサ	電子顕微鏡用試料加工	81,800～
電子顕微鏡 (TEM, SEM)	表面や構造の分析	20,600～
X線光電子分光装置 (XPS/ESCA)	固体表面の分析	47,200～
X線回折装置 (XRD)	結晶構造解析	20,200～
蛍光X線分析装置 (XRF)	元素分析	6,200～
高周波プラズマ発光分光分析装置 (ICP)	元素の定量・定性分析	23,100～
核磁気共鳴装置 (NMR)	化合物の分子構造の分析	46,000～
顕微赤外分光光度計 (FT-IR)	分子構造分析	18,600～
顕微ラマン分光装置	分子構造分析	34,100～
質量分析装置 (Orbitrap-MS, TOF-MS)	化合物の定量・定性分析	14,400～
水銀ポロシメータ	細孔径の測定	17,000～
マルチ食品分析装置	食品成分分析	21,500～



TEM/透過型電子顕微鏡
JEM-2100PLUS



SEM/日立S-5500



ESCA/島津KRATOS ULTRA2



XRD/PANalytical
X Pert PRO MRD



ICP/島津ICPS-8100



NMR/ブーカー
AVANCE NEO 500



マルチ食品分析装置
Nexera XR